

## 2025 年度 太陽の家地域連携推進会議 議事録

指定障害者支援施設 ゆたか

開催日時：2025 年 9 月 24 日（水） 13:30～15:45

場所：太陽の家 あせびホール

※別府第 1 ワークショップ 第 2 ワークショップ 第 3 ワークショップ 合同で開催

出席者：

地域連携推進員（地域の関係者） 1 名（亀川地区児童民生委員）

（利用者家族） 1 名（障害者支援施設ゆたか）

（利用者代表） 1 名（障害者支援施設ゆたか）

太陽の家 恒松 克巳（別府本部長）

服部 直充（大分広域本部長）

安部 順子（障害者支援施設ゆたか 管理者）

匹田 志保（障害者支援施設ゆたか サービス管理責任者）

進行：清水 将嗣 （就労支援 3 課 課長）

### 1. 別府本部長挨拶

別府本部長より開会のあいさつが行われた。

### 2. 出席者の紹介

進行担当より、地域連携推進員と太陽の家職員の紹介が行われた。

### 3. 地域連携推進会議の目的説明（別府本部長）

<本会議の目的について>

他県ではグループホームの不正受給など、グループホームや入所施設で不適切な運営が問題になった事例が見られています。このような状況の中、厚生労働省の方針で「地域連携推進会議」の実施が今年度より義務化されました。「地域に開かれた施設」を目指して会議を開催します。

会議の中で施設見学の時間を設定しています。ぜひ利用者や職員の支援の様子を見て下さ

い。見学中に利用者に話しかけても構いません。ただし個人情報の取り扱いだけは注意して下さい。（承諾書に同意済み）

#### 4. 各施設運営やサービス内容について（別府本部長）

<太陽の家各施設のサービスについて>

大分県内・県外の法人各施設の紹介

<障害者支援施設について>

日中と夜間のサービスを合わせて提供する施設を「障害者支援施設」と言います。

<別府市内の施設について説明>

- ・生活介護について。（障害者支援施設ゆたか）
- ・就労継続支援 B型について。（別府第1～4 ワークショップ）
- ・施設入所支援について。（別府第1～3 ワークショップ）
- ・就労継続支援 A型について。（別府第1～2 ワークセンター）
- ・各施設の定員・現員について。

<質疑応答>

- ・特になし。

#### 5. 施設見学（14:00～15:05）（後藤就労2課長）

地域連携推進員（施設利用者を除く）を施設見学に案内した。

- ・就労継続支援 B型作業所（電機科・機材料）
- ・e スポーツ（e バーリー）
- ・本館居室（就労継続支援 B型）
- ・障害者支援施設ゆたか

<地域連携推進員からの質問・意見等>

掃除が行き届いており、又整理整頓が出来ておりとても綺麗と意見を頂く。

ケアステ内を案内した際、アムス（生体モニター）はどの様な仕組みなのか質問あり、安部より回答行う。

（休憩） 15:05～15:10

#### 6. 施設・地域との連携について

<地域からの報告（行事等）>（推進員より）

- ・現在「北部中学校」「亀川小学校」で各月1回程度、あいさつ運動を行っています。
- ・溝部学園では、年2回交通安全運動等実施しています。
- ・地域に太陽の家で働く障がい者や、退職した方が多く住んでいるので、民生委員が毎月1回訪問活動を行っています。
- ・車いすでグラウンドゴルフをするグループがあります。毎月2回程度内竈グラウンドで練習をしており、今度一般のグループと交流試合を行う予定です。
- ・社協主催の亀川芸能文化祭が10/19に行われます。各町の芸達者が集まって披露する場で、あすなろ館で開催されます。70歳以上は招待され、あすなろ館までのタクシー代が補助されます。障がいのある方も70歳以上は全員招待されています。

<地域からの苦情など>（推進員より）

特に聞いた事はありません。

- ・苦情について（大分広域本部長より）

7/19開催の納涼大会で、音響がうるさいと地域住民から苦情の電話がありました。

地域の方には事前に説明を行っていました。

推進員より、「納涼大会に関して、私の周囲で苦情を言う人はいなかったです。」と補足ありました。

<障がいのある方への支援方法がわからないなど>（推進員より）

災害・危機管理になるが津波発生時に誰が車いす等、移動困難な方を避難誘導するかが問題です。別府市では、地域で暮らす障がいのある方の近隣住民に協力依頼をしています。

恒松本部長より

別府市は全国でも珍しく、要援護者の個別避難計画を作成しています。

服部本部長より

太陽の家本館・別館は津波避難ビルの指定を受けています。毎年避難訓練等を行い、スムーズに避難される方の受け入れが出来るよう準備をしています。

他の推進員から特に発言は無かった。

## 7. 利用者の権利擁護について 障害者支援施設ゆたかの報告（匹田）

<虐待防止・身体拘束の状況報告>

虐待と認定された件数は0件ですが、満足度調査の中で①言葉遣いの悪さ、②言葉遣いが

高圧的・暴力的に感じるとの意見がありました。職員研修を行い接遇の改善に努めています。身体拘束については、車椅子の胸ベルトを使用する方が3件あります。高齢者施設では、車椅子の胸ベルトも身体拘束であり、着用を行う事が困難な状況ですが、障害分野では「安全ベルト」との扱いとなります。現在、胸ベルトを着用されている3名の方には同意書を頂き、対応をさせて頂いております。日々の生活の中で「見直しを行う」ことも大切な事として、職員見守りの下安全確保が出来る場合はベルトを外し、状態の観察を行なながら見直しを行っております。

#### <ヒヤリ・ハット報告>

今年度（4月から8月）のヒヤリ・ハット報告件数は34件です。その内、事故発生報告が6件でした。大分県への報告を行った件数は3件であり、骨折事故が2件、薬の事故が1件でした。全体を分析した所、利用者の高齢化に伴う重度化による転倒が多くありました。今後の対策として、利用者の状況に合った支援方法の見直しを行い、重大な事故に繋がる前に未然に防ぐ事が出来る様、努めていきます。

#### <満足度調査などの利用者からの意見報告>

前年度の満足度調査の結果、満足度は昨年と大きな変わりはありませんでした。分析を行うと、接遇面では「良い」から「まあ良い」との評価に下がりつつあり今後の課題となる所です。又、「虐待を見た事がある」との項目では、前年度が1件に対し今回の調査では2件に増えておりました。内容の聞き取りでは、利用者が職員に対する言葉遣いが悪いとの意見が1件。逆に職員が利用者に対する言葉遣いがきついとのご意見が1件ありました。全体での研修を行い、接遇面の強化に努めています。

## 8. 地域連携推進員からの意見

推進員より

「地域の方で、太陽の家関係の企業を退職後、太陽の家の職員が就職支援をしてくれていたが途中で止まっている事例がある。ハローワークには連れて行ってくれたみたいですが、その後は何も支援をしてくれていないようです。就職が無理なら無理と言ってもらいたいし、最後まで責任持って支援して欲しいと思います。本人はA型を希望しているようです。」

恒松本部長より

「私たちは福祉サービスの提供が終わった時に、次の行き先までを決める支援をしなければなりません。今回の件はどこの部署が関わっているか、はっきり分かりませんが関係する職員に周知します。」

他の推進員から意見は無かった。

9. 大分広域本部長あいさつ

会議に参加頂きありがとうございます。施設見学をして多少は施設の事を知って頂けたのではないかと思います。

今後も何か疑問点がありましたら、担当職員にお気軽に尋ねください。

閉会（15:45）